

TIC NEWS

vol. **122**
2017.1

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



第21回とやま国際草の根交流賞受賞者の皆様

第21回とやま国際草の根交流賞表彰式

去る11月1日、富山県庁大会議室において、国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”の表彰式が行われました。

第21回とやま国際草の根交流賞受賞者の皆さま

国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”。受賞者は以下の皆さまです。

【個人】

金 銀姫 さん

富山県日韓親善協会の常任理事として、日韓の経済、文化、スポーツ、青少年などの交流の促進に尽力している。県内で開催された国際的な演劇祭、舞台芸術祭等において、韓国語の通訳ボランティアを務めるとともに、協会創立40周年事業では、韓国から舞踊団を招いての伝統芸能公演の開催に尽力するなど、日韓両国民の相互理解と友好親善に貢献している。

村田 善市 さん

富山市民国際交流協会の理事・姉妹友好都市委員長として、国際交流事業の企画立案や運営に尽力している。富山市の各姉妹友好都市への交流訪問を企画し団長を務めるなど、国際親善の発展に努めるとともに、「国際交流フェスティバル」や所属協会主催の「新春国際交流のつどい」などを企画運営し、市民レベルの国際交流に貢献している。

酒井 進 さん

富山県国際農業交流協会の副会長として、海外農業研修生の派遣推進や開発途上国等の農業研修生の受入に尽力している。自らアセアン諸国からの農業研修生の受入を多数引受けて、生活を共にするとともに、先進的農業技術、農業経営や流通加工等を指導し、日本との相互理解の醸成につなげるとともに、国際協力に貢献している。

【団体】

魚津市日本語ボランティア

会長 常楽 悦子

魚津市日本語ボランティアは、地域の外国人のための日本語学習を支援する日本語教室として活動している。日本語をほとんど話せない外国人と日本人ボランティアが1対1で日本語を学ぶだけでなく、日常生活における相談にも応じており、お互いの異文化を理解し合い円滑な人間関係の構築につなげるなど、地域の国際理解・多文化共生に貢献している。

富山県立伏木高等学校PTA会長

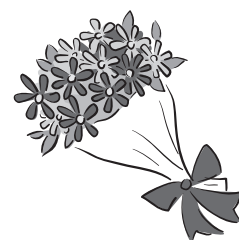
会長 大指 香

富山県立伏木高等学校PTAは、伏木高校の国際交流活動の支援に取り組んでいる。中国、韓国、ロシアの友好交流校から毎年訪れる約100名の海外生徒のホームステイ受入にあたって、PTAの啓発・呼びかけによりホスト家庭を確保するとともに、交流を深めるための歓迎行事を開催するなど、青少年の国際交流・国際理解に貢献している。

NPO法人ふちゅうスポーツクラブ

理事長 宮脇 範純

NPO法人ふちゅうスポーツクラブは、毎年、富山市婦中地域の中学生海外訪問団の派遣及び海外からの受入れを実施している。海外へ派遣される中学生は、事前研修を受けたうえで現地の学校訪問やホームステイを行い、国際交流意識の醸成を図っている。また、海外からの中学生受入では、日本文化の体験や地域住民との交流を図るなど、国際理解・多文化共生に貢献している。



国際交流人材バンク 通訳者セミナー

テーマ『台湾語でおもてなし』

日時：平成28年11月5日(土) 13:30~16:30

場所：環日本海交流会館 大会議室

講師：神田外語大学講師 林 虹瑛 氏

とやま国際センターの国際交流人材バンク登録者を主な対象に、毎年開催している通訳者セミナー。近年、富山県を訪れる外国人旅行者の中で台湾人が最も多いことから、今年度は台湾人観光客に向けたおもてなし通訳をテーマにセミナーを開催しました。

講師の林氏は、はじめに多民族、多文化、多言語国家である台湾には、公用語とされている国語のほかに閩南語（^{ミンナン}福佬話等とも呼ばれる）、客家語、原住民諸語などがあり、時代によって使用言語が制限されるなど社会的に大きな影響を受けてきたことを説明。その中でも閩南語は、総人口の7割以上を占める閩南系の人々の母語であり、台湾人のアイデンティティを表現するものであるなど、台湾人の言語意識や歴史的背景への理解を深めました。

発音に清音や濁音がある日本語、有気音や無気音に区別される中国語と異なり、台湾閩南語には有気音、無気音、濁音のほか8つの声調があり、音の高低で意味を区別します。日本人にとって発音は難しくあるものの、セミナーには県在住の台湾出身者も受講していたことから、ネイティブスピーカーたちのアドバイスを受けながら受講者同士で簡単な挨拶や会話にもチャレンジ。林氏の熱意に触れ、休憩時間やセミナー後もお互いに会話の練習をし合ったり盛んに質問したりするなど、セミナーは終始活気に満ちていました。

林氏は、「台湾語の構造や声調は複雑かもしれないが、簡単なフレーズでもコミュニケーションを取ることで日台交流はさらに高まる。新しい言語の習得は、自分の中の新しい窓をひとつ開くことにつながります」と、セミナーで学んだことを継続できるよう自主学習の方法も提案。台湾からの観光客に台湾語で話しかけることは、親密さやおもてなしの気持ちを示すだけでなく、相手のネイティブ文化を尊重する気持ちを示すことになることを教えていただきました。



講師の林氏

国際交流フェスティバル2016

日時：平成28年11月13日(日) 10:30~16:30

場所：富山駅自由通路・富山駅前CiCビル内（1、3F）

主催：国際交流フェスティバル2016実行委員会

共催：富山市民国際交流協会、(公財)とやま国際センター、JICA北陸

「異文化理解と交流」を深めることを目的に、20回目となる今年度は、昨年度から引き続き富山駅構内とCiCビルとの2会場で開催しました。

富山駅会場では、各国紹介で始まり、国際交流団体と各国紹介ブースが設けられました。

CiCビル会場では、ワールド・ゲーム大会でステージが始まり、国際交流団体の活動紹介やバザー、民族衣装や和服の試着体験などがありました。ワールド・ゲーム大会では、韓国、中国、アメリカ、ブラジル、日本の伝統的な遊びを10カ国からなる参加者が競い、大いに来場者を沸かせました。フィリピン出身のジョナス・ブラヤン・カアリムさんが優勝しました。

当日は気持ちの良い秋晴れとなり、約7,000人の人出でにぎわいました。



深まる富山との交流

平成27年10月に石井知事を代表とする富山県インドネシア経済訪問団が派遣され、現地政府機関・現地企業との意見交換、観光説明会を行いました。インドネシアには既に富山県企業8社が進出していますが、平成27年4月に行われた「富山県ものづくり総合見本市2015」にはインドネシアを含める12カ国からの企業・団体に出席するなど、さらなる経済交流の促進が期待されます。

また、立山黒部アルペンルートは2015年には過去最高の約21万5,000人の外国人が訪れましたが、うち、インドネシアからは前年の1.5倍の7,100人の観光客が訪れています。

富山県下では富山市がバリ島タバナン県で農村活性化プロジェクトにおける小水力発電の導入を目指しています。また、インドネシアから定置網漁業などの研修を受ける漁業実習生も県内4市町村で受け入れられています。

また(一社)インドネシア教育振興会(富山市)がインドネシアで教育普及活動を行う等、幅広い交流・協力活動が行われています。



インドネシア基本情報
首都:ジャカルタ
面積:189万 km²
人口:2.55億人



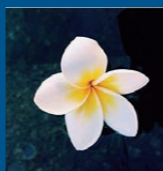
バリ島中部のプラタン湖畔に佇むウルン・ダヌ・プラタン寺院

インドネシア ~多様性に満ちた島国~

インドネシアにはアセアン諸国一の人口2億5,000万の人々が暮らし、2044年まで人口ボーナス期が継続するとされています。親日国家ともいわれるインドネシアでは、中国に次いで二番目に日本語学習者の多い国とされていて、その数は87万人にもものぼると言われています。

300以上の民族が暮らし、700以上の言語・方言が存在し、アジア随一の動植物の多様性を誇る国でもあります。

これからますますの交流が期待されるインドネシアと日本。そんなインドネシアの魅力に迫ります!



アセアン講座 第1回 ~インドネシア~

「インドネシアを知ろう! インドネシア文化講座」

日時:平成28年10月16日(日)

場所:環日本海交流会館

講師:イワン・スティヤ・ブディ氏 (INJカルチャーセンター取締役・インドネシア語主任講師)

アセアン諸国について理解を深めることを目的に開催されたアセアン講座。その第1回目は「インドネシアを知ろう! インドネシア文化講座」と題し、東京でインドネシア語講師、通訳・翻訳、テレビのコメンテーターなど多岐にわたって活躍されているイワン・スティヤ・ブディ氏を講師としてお呼びしました。

イワン氏は、インドネシアの基本情報、インドネシアと日本の関係、日本におけるインドネシア人ムスリムについて講義されました。また、簡単なインドネシア語の会話練習に参加者全員でチャレンジしました。

「インドネシアで走っている自動車、バイクはほとんど日本製」、「日本のドラマなどを紹介するKokoro no Tomo」というテレビ番組がインドネシアで大人気など日本文化がいかにインドネシアに浸透しているかという紹介もありましたが、その一方でインドネシア人ムスリムたちが日本で礼拝、断食などを行ったり、ハラールにのっとった食生活を行うことがかなり難しいということも学びました。

参加者の皆さんからは、「インドネシア語はそんなに難しくないと聞いたので機会があれば勉強してみたい」、「ムスリムについてあまり知る機会がなかったのだからよかった」、「ガイドブックなどではわからない話が聞けてよかった」などの感想があげられました。



講師のイワン氏

“こんなこと知ってる? インドネシア”

インドネシアにまつわる面白い事実。あなたはご存じでしたか?

- ・インドネシアという国名はラテン語、ギリシア語のIndusと、“島”を意味するギリシア語のnesosから派生してできたもの。
- ・島のみで構成される国としては世界最大。17,508の島からなり、うち約6,000の島に人が居住する。
- ・2億5,149万人の人口は中国、インド、アメリカに次ぎ4番目。ジャワ島には1億4,000万が住み、最も人口密度の高い島となっている。
- ・マルコ・ポーロはインドネシアを訪れた最初のヨーロッパ人(1292年)である。
- ・第二次英蘭戦争後、イングランドは決定的敗北をとげたがフランス軍侵攻に対処したいオランダ軍は妥協的講和条約を結ぶ。この際オランダは現在のニューヨーク市にあたるニューアムステルダムをイングランドに割譲し、代わりにナツメグ等の香辛料貿易の要であったインドネシアのラン島を得た。
- ・インドネシアの公用語はインドネシア語だが、国が認めている言語は国内に700程度存在する。
- ・イスラム教徒が人口の87.2%で、世界一のムスリム人口をもつ。
- ・インドネシアは第二次世界大戦中1942年~1945年の間、日本軍に占領された。
- ・インドネシアの温室効果ガス排出は世界ワースト3位である。
- ・世界最大規模の人口密集地であるジャカルタには地下鉄がないため、交通渋滞が問題となっていたが、現在日本政府等の協力で地下鉄工事に着手されている。
- ・世界経済をけん引するG20の一員であるが、人口の約半分は一日2ドル未満で生活している。
- ・英語のketchupはインドネシア語のkecap(醤油)からきている。
- ・インドネシアは世界最大のパーム油の産地である。ピーナッツバター、石鹸、化粧品など、あらゆるものにパーム油が含まれている。
- ・インドネシア政府はイスラム教、ヒンドゥー教、仏教、プロテスタント、カトリック、儒教の6つの宗教しか認めていない。すべてのインドネシア国民はいずれかの宗教に帰属しなければならず、異教徒同士はどちらかが改宗しないかぎり合法的に結婚できない。
- ・インドネシアは“カエルの脚”の最大の輸出国で、対ヨーロッパだけでも毎年4600トン輸出している。
- ・1883年、クラカタウ火山の大噴火が起こり、発生した火砕流は海上40kmに及び、津波は周辺の島を洗い流した。2004年スマトラ島沖地震が起こるまではインド洋でおきた最大の津波被害とされていて3万6,000人あまりが亡くなった。海底ケーブルで全世界に報道された史上初の大規模災害である。2004年に起きたスマトラ島沖地震は約23万人が亡くなった。
- ・アメリカのオバマ大統領は6歳から10歳までジャカルタの小学校に通った。
- ・インドネシアでは喫煙者の9割がクローブを混ぜたタバコである“クレテック”を吸っている。元は喘息治療の薬として開発されたものである。
- ・パプアの伝統的衣装に使われていたフウチョウ(極楽鳥)の羽根はヨーロッパのファッションでも流行し第一次世界大戦前は絶滅寸前だった。2000年から商業取引は禁止されている。



フウチョウ



ジャコウネコ

- ・1955年バンドンで開かれたアジア・アフリカ会議では西側、東側のどちらの陣営にもつかない第三の立場を貫こうという“第三世界”という言葉が誕生した。
- ・コピ・ルアクはジャコウネコの糞からとられる未消化のコーヒー豆で、世界で最も高価なコーヒーといわれている。価格は100gにつき約4,000円程度。

“協力隊ナビ”～JICAボランティア経験者と語ろう～毎月開催中！

“ここに来たらJICAボランティアOB・OGの体験談が聞ける！” そんな場所をご用意しました。

「JICAボランティアってどんな活動をしているの?」、「現地での生活は?」、「帰国後の進路はどんなの?」など、JICAボランティア経験者が皆さんの疑問や質問にお答えします。申込みは不要ですのでお気軽にお越しください。



協力隊ナビの様子

協力隊ナビ ～JICAボランティア経験者と語ろう～

日時：毎月第2水曜日 18：30～20：30

* タワー111指定駐車場をご利用の場合、1台につき
300円分の駐車回数券を負担します。

会場：インテックビル（タワー111ビル）3階 会議室

主催：青年海外協力隊富山県OB会

問合せ・連絡先：JICA国際協力推進員（富山県デスク）船木 愛

TEL：076-464-6491 E-mail：jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp



今回はミクロネシア連邦から届いたシニア海外ボランティア 石崎 訓子 さんからのお便りをご紹介します。

私はミクロネシアのチューク州にて生活習慣病予防のための食生活改善に関わる活動をしている栄養士です。ミクロネシアは美しい国です。配属先では州立病院の糖尿病外来患者の食事相談やウェルネスセンターで料理講習や健康づくりの相談を受けたりしています。皆さん食べるのが大好き！超特大の胃の持ち主ばかり。よく食べてよく笑うのはいいのですが悩みは超超BIGな身体。しかし人々の食生活は日本のように豊かではありません。「身土不二」という言葉がありますが人々にとって馴染みのある食材こそ大切と考えて、野菜をプラスした減量作戦メニューにチャレンジしています。

現地の言葉が話せたらもっと仲良くなれるのに…。想いを十分に伝えることのできないもどかしさがありますが共通言語は笑顔。優しく太陽のように明るく、おおらかな人々からは学ぶことが沢山あります。人々のこの笑顔がずっと続くように自分のできることをし続けていきたいと思えます。



石崎 訓子さん

派遣国：ミクロネシア

職種：栄養士

派遣期間：平成27年10月～平成29年10月

配属先：チューク州政府 保健局公衆衛生部

ラピンスキー 愛子 さん (ミシガン富山県人会 幹事)

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. 英会話塾を経営しており、デトロイトりんご日本語補習校の教師もしています。ミシガン州に在住する富山県人約10名が毎月集まる“ミシガン富山県人会”の幹事もしています。

Q. 近況について教えてください。

A. アメリカ、ミシガン州のデトロイトから30分程離れた日本人が多い市に住んでいます。デトロイトはモーターシティと呼ばれ、有名な自動車産業（GM, Ford, FCA）があります。日系の自動車関係の会社が多くあり、日本人の駐在員の家族も多く、実際は危ないデトロイトのイメージとはかけ離れた安全で住みやすい所です。和食レストランや日本風のスーパーマーケットも多く、日本人にとっては馴染みやすい環境です。

冬はマイナス24度まで気温が下がりますが、夏は37度まで気温が上がります。寒暖の差はありますが、湿度が低いので、夏は大変過ごしやすいです。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 富山市に生まれ育ち、大学卒業まで富山で過ごしました。毎日見える立山の美しさに感動しながら、自分はなんて素晴らしい土地に生まれたんだろうと心から感動すると同時に、富山から出で自分に挑戦したいという気持ちもいつもありました。アメリカに移住してからは地元に対する故郷愛も募り、富山出身の友人を集めてミシガン県人会を創立しました。富山の企業もミシガンにたくさんあることを知り、改めて富山の会社の活躍に同じ富山出身として嬉しく誇らしく思いました。

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 毎年アメリカから富山へ帰郷していますが、ここ2、3年の富山の変貌ぶりにびっくりしています。新幹線が開通した時は全員でビデオを見て感動の涙を流しました。いつも同じようにみえて新しく変革している富山の人たちを私も遠くからですが応援しています。ミシガンで富山弁を思いっきり話せることに感謝し、富山に思いを募らせています。富山は日本で一番美しく心の休まる故郷です。



リンゴ栽培がさかんなミシガン州

こんな“国際交流”やっています！

“ネパール国立舞踊団富山公演”

富山ネパール文化交流協会(射水市)

～TICから助成した事業をご紹介します～

富山ネパール文化交流協会は富山県民とネパール人との交流活動を行うことを目的に平成27年に発足し、ネパール大地震の復興支援活動、募金活動などを行ってきました。

平成28年7月30日から8月4日まで開催された「とやま世界こども舞台芸術祭2016」に参加したネパール国立舞踊団「ナーツガル」の皆さんが八尾ゆめの森ゆうゆう館（7月31日）、高岡市立成美小学校（8月1日）、射水市の葉っぱカフェtutti（8月3日）でそれぞれ公演を行いました。

八尾ゆめの森ゆうゆう館では、富山ダルクの太鼓演奏との共演に地域の方々30数名の参加もありました。

以前からネパールとの交流があった成美小学校では児童からお礼の歌も披露されるなど保護者・地域住民あわせて450名が参加し思い出深い公演となりました。



phở(フォー)

フォーは伝統的なベトナム料理です。ベトナムにはいろいろな味のフォーがありますが、一番人気があるのは牛肉のフォーです。薄切りにした牛肉を生の状態を麺の上に置き、上から熱いスープをかけて食べるのがベトナム風です。外食するのが一般的で、肉の茹で具合や、トッピングは好きなようにアレンジできます。



～作り方～

1. 牛骨を一晩、水に浸し水気をふきとる。
2. 鍋に水1Lを沸騰させ、塩、牛骨を入れ5分茹でる。茹で汁を捨て、ゆすいだ鍋に牛骨を再び入れ、6Lの水で茹でる。途中、灰汁や油は取り除く。
3. フライパンでエシャロット、乱切りしたタマネギ、ショウガを焦げ目がつくまで焼き付ける。
4. シナモンスティック、八角を2分程度炒る。
5. 3、4を2に投入し1時間くらい煮詰める。
6. 5のスープから固形物を取り除き、ガーゼでこし、ヌックマム、砂糖、黒コショウを入れ沸騰させた後、さらに弱火で15分煮る。
7. むるま湯に30分浸しておいたフォーを熱湯で5分茹でる。
8. 温めておいた器にフォー、モヤシを載せ、薄切り肉を載せた上に熱いスープをかけ、好みのトッピングを載せていただく。



～材料～ (4人分)

[スープ]

牛骨…………… 1kg
塩…………… 小さじ2
ショウガ…………… 50g
エシャロット…………… 3個
タマネギ…………… 大2個
シナモンスティック…………… 1本
八角…………… 小さじ8
ヌックマム…………… 1/2カップ
砂糖、黒コショウ…………… 適量
牛薄切り肉…………… 300g
フォー(乾麺)…………… 1袋

[トッピング]

モヤシ、薄切りタマネギ、唐辛子、ワケギ、コリアンダー、ミント、バジル、ライム等

TICからのお知らせ

これからの行事予定

日本海シンポジウム

いのち輝く森づくり・海づくり

—高低差4,000mのとやまから—

2月18日(土) 13:30~16:30 北日本新聞ホール

基調講演「山・森・海をめぐる水」

講師：沖 大幹 氏

(東京大学生産技術研究所教授)

パネルディスカッション

「富山・高低差4,000mと環日本海の姿」

コーディネーター：張 勁 氏

(富山大学大学院理工学研究部教授)

パネリスト：沖 大幹 氏

(シンポジウム基調講演講師)

藤田 香 氏

(日経エコロジー編集&日経BP環境経営

フォーラム 生物多様性プロデューサー、

富山大学客員教授)

長谷川幹夫 氏

(富山県森林研究所上席専門員)

JET世界まつり2017

toyamazing JET~きときと30年!

2月19日(日) 12:00~16:00

富山県民共生センターサンフォルテ

ステージアトラクション、出身国紹介ブース、キッ

ズコーナー、国際カフェ、異文化体験コーナー、民

族衣装コーナー

電話通訳サポート

外国人の方が直接専門機関に相談されたい場合、電話通訳サポートが利用できます。三者通話機を使い相談員が通訳します。

電話通訳サポート専用ダイヤル

076-441-5654



(公財)とやま国際センター賛助会員募集及び 寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円

団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくお願ひ申し上げます。